



2025年10月5日主日連合礼拝メッセージ

日本同盟基督教団 クリスチャンプレイズチャーチ

【幕屋への神様の祝福】

説教者：鄭南哲牧師

* 聖書箇所：出エジプト記25章1-2、8-22節 * 今週暗唱聖句：コリント人への手紙第一6章19節

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！今までみんなお元気でしたか。ただいま！今までみんなお元気でしたか。大分朝夕はすっかり秋めいて涼しくなってきました。これからの季節の変わり目に体調崩さないように、教会家族のみなさんの健康と主の平安を心からお祈り申し上げます！今までみなさんのお祈りと愛に支えられて、22年ぶりに初めて約3ヶ月の安息月を頂き、誠にありがとうございました！日本で休息をとりながら、約1ヶ月ぐらい冬だったオーストラリアへ行って、シドニーにあるハナロ長老教会から提供された教会のある執事さんが貸し出して下さった家に滞在しながら、8月20日まで過ごせました。子どもから大人に至るまで、徹底的に聖書のディボーションをする素晴らしい御言葉中心とした教会であり、とても愛の溢れた教会家族でいろいろとお世話になりました。また南部にあるアデレードに滞在している息子シンヒョンにも会いに行ったり、行ったついでにアデレード日本人教会から説教を頼まれ、また奉仕したり、実はハナロ教会でも3回の説教が入りましたが、オーストラリアでの時は本当の安息の時となられ全てが感謝でした。また、9月一週目には予定していた日本同盟基督教団7組先生たちを連れて韓国の東西南北教会を訪問し、その後、私だけ残り、9月まで神学校の図書館に行って聖書研究の時も持ちましたが、韓国でも断れず10回ぐらい説教奉仕で招かれましたが、疲れるより多くの恵みとチャレンジを頂き、祈られ、全てが感謝でした

旧約の出エジプト記を通して、荒野でのイスラエルの民の歩みを通して、教えられるのは、「何を持っているか、多く持っているか」が人生の幸福の基準ではなく、「だれとともに歩んでいるのか、だれとともにいるのか」が荒野のような人生の歩みの中では最も大切であることを出エジプト記は教えて下さっています。まったく初めてで、さまよいやすく知らない道歩んでいる時に、子どもにとって親と一緒にいるほど安心で、安全なことはいでしょう。羊が羊飼いとともにいる時が、一番幸いで、安心出来るように、羊のような我らが、我らの人生を守り、助け、導き、与え、支えて下さる大牧者あられる神様と共にいる時こそ、一番安心出来る幸いな時となることが分かります。

まことの幸福は、神様が我らとともにおられ、我らとともに歩んでくださる時でしょう。いくら我々の状況がきびしく、どちらへ向かえば良いのか道をさまよう時、どうしても恐れ疲れて先が見えない時に、私たちが創造された神様が私たちとともにおられるなら、私たちは安心することができます。ですから、信仰生活の一番危ない時は、苦しい環境ではなく、その中に共におられる神様、イエスキリストを離れ忘れて、自分一人で勝手に進んでしまうことだと信じます。

<1. 律法の後、絶望したイスラエル民たちを通して神の幕屋(聖所: Holy tabernacle: 今日教会)を立たせて下さる神様>

今日は、荒野でご自分の民たちに与えて下さる祝福の中で今日一緒に考えて見たいのは、出エジプト記19-20章によると、神様はシナイ山で神の民を愛され、祝福するために神様はイスラエルの民に律法を与えて下さいました。

神様の律法のそのもの自体は、ご自分の民が荒野の中でどう生きれば神様との関係を保ち、すべての関係が守られ、祝福され、幸いに生きる事が出来るのか教えて下さるために神様から与えられた聖いものであり、完全なものでしたが、問題はイスラエル民たちがその神の律法をすべて守り切ることができませんでした。

民の為に律法が与えられましたが、イスラエルの民はその律法を守りきれない問題があったわけでありました。

例えば、律法では「姦淫をしてはならない」と教えています。その通りでしょう。我々は決して姦淫してはなりません。

しかし、人間は本来淫乱なところがあるのではないのでしょうか。「盗んではならない。」ところが、人は他人のものがもっと良い風に思われ、欲しくなります。「偽りの証言をしてはならない」とありますが、自分の為よくふりをしながら、簡単にうそをつく時もあります。それで、神の律法を見つめれば見つめるほど、自分たちはもっとひどい罪人であることに気付きます。

結局、神の律法は、我々が罪人であることを悟らせ、教えて下さる物で、罪あることのすべてを解決してくれるわけではありませんでした。

それで、神の民たちに、神の律法と同時に罪の問題を解決してくれる装置が必要でした！

神様はそれらのことさへもご存知でした。人間が罪にこれほど弱いことをご存知だった神様は、シナイ山で律法を与えて下さった神様は、24章12節から読んで見ますと、もう一度モーセを山へ呼びになりました。そこで、罪を犯す可能性があるイスラエルの民たちを愛され、哀れんで下さった神様は、もう一つ、幕屋の祝福をも与えて下さいました。

神様は40日間、すべて神様のご命令に従って神様がご臨在する場所を定めて下さったのです。そこが幕屋(聖幕)でした。もちろん、神様はどこにもおられるお方ですが、格別に指定され、区別されたところに神ご自分の民のため、臨在され、そこで民の犯す罪赦し、解決して下さる道を備えて下さった、その場所は、神の幕屋のところでした。**(25章—31章)**

今日の**本文8－9節**です。

「8彼らにわたしのための**聖所**を造らせよ。そうすれば、わたしは**彼らのただ中に住む**。9**幕屋と幕屋**のすべての備品は、わたしがあなたに示す型と全く同じように造らなければならない。」

今日の**本文25章1-2節**では、**神様ご自身が住まわれるところつまり、その幕屋(聖所)を立てるため、イスラエル民に持っていないものを無理やりではなく、持っているもので、必要なものを自ら献げるように命じられています。教会はみなさんがもっているものを神様が用いて建てていかれるお方であることは、どれほどすばらしいことであり、祝福なのでしょう。**

自分がもっているで、主が主のご栄光の表す為に用いて下さるこそ一番嬉しい祝福がありますでしょうか。それを知っていた神の民たちも自分のものの中で主の家を建てるため必要な物を持って来ました。

しかし、2節に一つの条件がありました！何でしたか。自分たちの中で臨在される神の家を作る為に、神様は、イスラエルの民が、**自ら心からをもって、献げなければならない**ということでした。

神様は仕方なく、むりやりに捧げるものを嫌われました！神の民たちが多くあれ、少なくあれいくら心から感謝と喜びを持ってささげるものだけに神様はお受けとって下さるお方であることを忘れないで下さい。これは今日の我々にも同じです。

第二コリント人への手紙8章12節「喜んでする思いがあるなら、持っていないものに応じてではなく、持っているものに応じて受け入れられるのです。」

“神様、こんな私でも、わずかなものでもお使いくだされば”と心から喜びながら主に捧げることを神様はそれのみをお受けとって下さるお方です。

*** 第一コリント人への手紙3:16－17節**

「16あなたがたは、**自分が神の宮**であり、神の御霊が自分のうちに住んでおられることを知らないのですか。17 もし、だれかが神の宮を壊すなら、神がその人を滅ぼされます。**神の宮は聖なるものだからです。あなたがたは、その宮です**」

特に注目すべきことは、**この聖所(幕屋)とそしてその中で至聖所の中にある一番重要なものである、「神の契約の箱である**

*** 主な材料(アカシヤ材(出25:10:あまり高級素材でもなく、あんまりものを作るのにもよく使われてない下品な質の木。幕屋のために、アカシヤ材で、まっすぐに立てる板を作る。)(出エジプト26:15)**

そんな聖なる契約の箱をつくるのに、神様はどんな材料でつくってお命じになったのでしょうか

はい、アカシヤ材(ざい)でした。

「アカシヤ材の箱を作らなければならない。」(出エジプト25:10)。実はアカシヤ木は聖なる契約の箱だけではなく、聖所の大体全部のものの材料で使われました。もっともってアカシヤ木はしない半島でどこにでも見られた木で、このアカシヤ木はあまりやくにたなくてそんなに利用価値がなさそうなものでした。なぜなら、アカシヤ木(acasia wood)はまっすぐに伸びなくて、見た目もよくない(木の皮もでこぼこできれいじゃない)、あんまり実も、葉も少ない木でした。そして、木の枝もわりと細くて硬い木だったので木材として使いにくいものでした。このようにあまりたぎぐらいに使えそうなものを神様は用いて、聖なる聖所を作るために、それともその中でもっとも大切な神様が臨在しておられた聖なる箱をつくるために用いてくださいました。

そして、アカシヤ材は①かんなをかける過程が必要である(我らのあらさ・弱さ・頑な面を神は磨いて下さる過程)。

神様は我らを汚いところが洗われ、粗(あら)さ、欠け、未熟さをきれいに、まっすぐに整えさせてくださるプロセスが必ずあります。神様のため尊く用いられるために、それだけの忍耐はする必要があると思います。

あの有名な画家ミケランジェロはご記憶にありますか。彼はあるお店の前を通った時に大きな大理石を見つけました。それを買うつもりでそのお店のおじさんに金額をたずねると、彼は「どうぞ、ただでお持ちください。12年間ずっとおいたままで、もうじゃまですね。」といいました。ミケランジェロはそれを持ち帰り、1年後すばらしい作品をつくりおえました。それがあの傑作品、“イエスキリストの像”でした。隅っこでほったらかしにされて置いてあった石の不要なところがそぎ落とされ、きれいに整えられた時に名作が完成されたのです。

人間にはかくばったところがあります。弱い部分もあります。高慢な所もあります。自分自身の弱点は誰よりも良く知っています。しかしこのようなところはなかなか神様にゆだねられない本能が私たちにはありますね。私たちも、きれいに整えられるためには心の痛みを伴う苦しみ等があるかもしれませんが、知らないうちに成長している自分の姿を期待しながら、神様に私たち、自分自身をゆだねていこうではありませんか。

ヤコブの手紙4章8節には、「神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいてくださいます。罪人たち、手をきよめなさい。二心の者たち、心を清めなさい。」

②つなぎ合わせる必要(出エジプト記26章9節に「9その五枚の幕を**一つにつなぎ合わせ**、また、ほか六枚の幕を**一つにつなぎ**

合わせ、その六枚目の幕を天幕にする。：「この方であって、組み合わされた建物の全体が成長し、主にある聖なる宮となるのであり、このキリストにあって、あなたがたとともに建てられ、御霊によって神の御住まいとなるのです。」(エペソ人への手紙2章21-22)共に成長し、ともに聖なる宮になるためには自分ひとりぼっちではけっしてできず、ともに組み合わされて、一つにつなが合わされた時に神様の栄光をあらわす為用いられるようになることを教えて下さっています。

<なぜつながるのが大切なのか>

- 1) 我々は神の家族に属しているからです。「**エペソ2:19**—あなたがたは、まさに神の家族の一員であり、他のすべてのクリスチャンとともに神の家族に属しているのです。」(リブングバイブル訳)
- 2) 主にあって一つの体だからです。」「(ローマ人への手紙12章5節)「大勢いる私たちも、キリストにあって一つのからだであり、一人ひとり互いに器官なのです。」
- 3) アカウンタビリティが必要だから。
(支えあうため互いの生活に関心を持ち、倒れないように正直に分かち合える人)
「鉄は鉄によって研がれ、人はその友によって研がれる」(箴言27:17)
- 4) 神の御心がかなえられるため
「まことに、もう一度あなたがたに言います。あなたがたのうちの二人が、どんなことでも地上で心を一つにして祈るなら、天におられるわたしの父はそれをかなえてくださいます20 二人か三人がわたしの名において集まっているところには、わたしもその中にいるのです。」(マタイの福音書18:19)

<新約聖書に強調されている「互いに」>

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 互いに仕える(ガラテヤ5:13) | 互いに受け入れる(ローマ15:7) |
| 互いに赦し合う(コロサイ3:13) | 互いに挨拶を交わす(ローマ16:16) |
| 互いに重荷を負いあう(ガラテヤ6:2) | 互いに尊敬し合う(ローマ12:10) |
| 互いに訓戒し合う(ローマ15:14) | 互いに従う(エペソ5:21) |
| 互いに励まし合う(1テサロニケ5:11) | |

③その上に純金がかぶられます(出25:11)

アカシヤ木でかたち作られた箱に純金をかぶらせることを神様は命じられました。
11節によりますと、『それに純金をかぶせる。その内側と外側にかぶせ、その周りに金の飾り縁を作る。』
ヨブ記23章10節をともに読んでみましょう。
「しかし、神は、私の行く道を知っておられる。神は私を調べられる。私は金のように、出て来る。」

* 神の幕屋と契約の箱の素材アカシヤ材の上に純金の大切な意味:

ここには神様の深い意図(いと)が隠されていたと思われませんか。あまりやくにたたない下品(げひん)なものでさえ、神様の御手に置かれ、用いられれば、尊く、豊かに用いられることを教えようとするのではないのでしょうか。
いくら自分がアカシヤ木のように特別ではない普通な者だと思われる人でも、あきらめ、欠け、欠点や弱い者だとしても、神様の御手にゆだねられた時、神の栄光を表す物として、尊ばれ、尊く用いられます。さらに神にあって尊い価値ある人生として用いられることを教えられます。一人ではなく、つないで共に！時には、痛みや苦しめられる時あるでしょう。まるでかなでかけられているように、しかし、それでさらにまっすぐに、きれいに十分に整えられ、用いられるように備えてくださる時があります。

神様のご臨在される幕屋と一番大切な契約の箱の材料として使われました！24節を見るとアカシヤの木で作られる箱に何をかぶせなさいと言われていませんか？純金です。アカシヤ木がどんなに整えられてきれいにされても、そのままでは価値あるものではありません。しかし、そこで純金でかぶせることを命じられました。神様のために委ねられ、献げ用いられる人はさらに尊く、価値ある存在として用いられることを意味します。

これは、私たちのアカシヤ木(弱点、欠点だらけ、私たちの問題、すなわち、弱さ)に神様はその上に純金をかぶらせて神の幕屋を作るために用いられたように、その私たちの欠けているところを、神様は補(おぎない)い足(た)して下さってさらに尊く用いて下さるという意味であります。今日も、神様がアカシヤ木のようなそんな弱い私たちを用いようとしておられます。純金でかぶらせ、みごとなものとして我らも尊く用いようとしておられます。

* **ヨブ記23章10節**「しかし神は、私の行く道を知っておられる。私は試されると、金のようになって出て来る。」

< 2. 幕屋(聖幕)中には神様の臨在の中に神様と出会い、罪を赦され、回復される祝福があります。>

それでは幕屋(聖幕とも言います)の祝福が何であるかご存知ですか。律法のゆえに絶望し、挫折し、犯した罪を赦される場所がまさに幕屋(聖幕)なのです。もし、聖幕がなかったならば、私たちは絶望してしまったはず。律法は罪を悟らせませす。しかし、犯した罪を解決することはできません。御言葉その自体は、罪を解決するものではありません。

それでは、これから私たちが罪を犯し、過ちを犯したときこれらをどのように解決しますか。

罪を解決するのは十字架のイエスキリストのみです。「イエスはご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのためにこの新しい生ける道を開いてくださったのです。」(ヘブル人への手紙10:20)

私たちは神様に会って神様から罪の赦しを受けなければなりません。つまり、神様に会い、罪を赦される場所がすなわち聖幕(幕屋)だったのです。神様はそのために私たちに聖幕(幕屋)を与えてくださったのです。

一年に一度、自分が死ぬことはできないので、やぎや羊や子牛の身代わりの死によって、その血をもって自分の罪代わりに聖幕に入って撒(ま)くようにしました。そうすることによって、罪の赦しを受けるように神様が道を開いて下さったのです。

これが聖幕(幕屋)の祝福なのです。イエスキリストが十字架につけられた時に、神殿の幕が上から下まで真二つに裂けられ、神に近づけられる道を開けて下さいました。

* **ヘブル人への手紙9章11-12節**「11しかしキリストは、すでに成就した すばらしい事がらの大祭司として来られ、手で造った物でない、言い替えれば、この造られた物とは違った、さらに偉大な、さらに完全な幕屋を通り、12また、やぎと子牛との血によってではなく、ご自分の血によって、ただ一度、まことの聖所に入り、永遠の贖いを成し遂げられたのです。」

* **ヘブル人への手紙7章27節**

「イエスは、ほかの大祭司たちのように、まず自分の罪のために、次に民の罪のために、毎日いけにえを献げる必要はありません。イエスは自分自身を献げ、ただ一度でそのことを成し遂げられたからです。」

<3. 聖幕(幕屋)の中には感謝が溢れる祝福があります。>

もう一つの祝福は、聖幕に入る者は、かならずすべきことがありました。それは、神様が行われたすべてのことを、覚え、感謝する心をもって感謝のささげものをささげなければなりませんでした。

ただ罪赦されることを求めるためだけでなく、神様に礼拝し、賛美したくなるとき、神様の民はその幕屋に入りました。これが聖幕を通しての、もう一つの祝福でした。このように、神様がご臨在しておられた聖幕に入ると、罪が赦され、回復されました。そして、感謝と賛美が満ち溢れました。神様のご計画の中で作られた聖幕(幕屋)に入り民たちの汚れたすべてが洗い清められ、新しく生まれ変わるようにして下さって、再びこの世に送り出して下さったのです。

このような聖幕(幕屋)の祝福のゆえに、イスラエルの民は40年間も死の荒野の中でも安心して生活することができたのです。詩篇100篇4節「感謝しつつ、主の門に、賛美しつつ、その大庭に入れ。主に感謝し、御名をほめたたえよ。」

<4. この聖幕(幕屋)は今日教会(神の家族共同体)です。>

この荒野の祝福された聖幕(幕屋)がすなわち、今日の教会です。

みなさんは主イエスキリストを信じて救われましたか。ところが、もし、そのようなみなさんに教会がなければ、どうなったのでしょうか。愛するみなさん！私は、この世で一番残念で、かわいそうな人は、主イエスキリストを信じながら教会を決められずにさまよっている人たちだと思います。

今日はこの教会、明日はあの教会、という方はお葬式をしてくれる所ありません。

自分がささげる祭壇！自分が慰められるところ、自分が癒されるところ、自分が回復されるところの教会がなければ、その人は主イエスを信じない人と同じようにさまようようになります。

神様の祝福の中での祝福は、私たちが礼拝をささげられる場所、自分の主の教会があるということです。

祈り、涙を流し、叫び、神様から許しを受け、慰められ、神様から力を得て、世に向かってまた出て行ける、そのような今日の聖幕のような自分の教会があるというのはどれほど祝福なのかそれを忘れてはいけません。

イスラエルの民が死の荒野の40年間を耐えることのできた理由は、聖幕(幕屋)があったからでした。

彼らは神様のみことばを受け、神様から与えられたマナを食べました。苦い水が甘い水に変わり、敵も打ち破りました。

しかし、それよりもっと重要なことは、日々絶望し、挫折し、失敗を繰り返す彼らに悔い改め、罪の許しと慰めを受け、神様から新たな力を得、再び荒野へ出ていくことができるようにしてくれる 聖幕(幕屋)が彼らにあったということです。

それゆえに、イスラエルの民は40年間、死の荒野の中でも勝利の生活をする事ができたのです。

愛するみなさん！これがまさに今日の教会なのです。

このような意味で、教会の責任がどれほど大きいのか、大事なのか分かりません。

ですから、教会が不幸になると個人の霊的生活も不幸になり、教会が幸福になると、個人も幸福になります。

教会が騒がしくなると、自分の生活もどれほど複雑になるか分かりません。

ですから、神の教会とは私たちと運命共同体だとも言えるでしょう。

これが、まさに教会です。これが聖幕(幕屋)なのです。

イスラエルの民はどれほど苦しい荒野の時を過ごしていたとしてもイスラエルの民の真ん中に聖幕(幕屋)があり、その聖幕のゆえに40年間を十分に耐えることができたことを忘れないで下さい。

みなさん！教会とは何だと思っていますか。

建物なのでしょうか。教会は教派や制度でもありません。教会をそのようなもので考えていると、教会の中でご臨在される神様に会おうのが難しくなるわけです。教会に来て、だれに会うべきでしょうか。神様に会わなければなりません。教会は人に会うところではなく、神に出会うところです。教会の中でだれから慰めを受けるべきでしょうか。神様から慰めを受け、再びこの世に出ていくようにするのが荒野にある聖幕(幕屋)であり、教会なのです。そのために神様は今日主の教会を地上に残してくださったのです。我々は今主の教会に入りここに興味を、みなさんの関心を、エネルギーを費やしているのでしょうか。神様に会おう事、イエスキリストと出会い、罪赦され、きよめられ、救われ神の家族になることだと信じます。荒野のような人生の中を歩ませて下さっている神様が我々のために聖幕(幕屋)の祝福を備えて下さっています。

<適用:旧約の幕屋(聖幕)はイエスキリストと教会の神の家族たちです。>

もう一つ重要なことは、イエスキリストを意味するこの聖幕(幕屋)がすなわち、その主を信じている私たち自分自身であることをかならず覚える必要があります。

コリント人への手紙第一6章19節には、このようなみことばがあります。

「神の宮と偶像とに、何の一致があるでしょう。私たちは生ける神の宮なのです。神はこう言われるとおりです。「わたしは彼らの間に住み、また歩む。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。」

わたしたちの体がすなわち、主の宮です。神様のからだである教会をきれいにし、清くする責任が私たちにはあります。

それによって我々はこの世の中で勝利の生活をすることができます。

次にコリント人への手紙第一6章20節を見ましょう。

「あなたがたのからだは、あなたがたのうちにおられる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自分自身のものではありません。」

愛するみなさん、教会は建物ではなく、キリストのからだです。律法のゆえに絶望した幕屋に入るとイエスキリストに会います。旧約の時代にあった聖幕(幕屋)はイエスキリストを意味します。旧約の人々はその聖幕にはいり、イエスキリストの出会い、そこで悔い改め、罪の赦しを受け、回復され、変えられ、慰めを受けることができます。今日私たちは主イエスキリストが地上に来られた後にそのイエスキリストに霊の中で出会い、信じ、そのイエスキリストのゆえに罪の赦しを受けいれ、その方とともに歩めることが可能な恵みの時代に住んでいます。

荒野のようなこの世で日々勝利し、生きていく秘訣はイエスキリストに毎日出会うことです。イエスキリストの十字架と復活の前に毎日出て行くことです。それはつまり、聖霊様が御言葉を通して悟られ、わきまえられ、日々思い、心、言葉、行動、感情、魂に満たされるよう求めて、委ねていくときこそ、神様が私たちの生活に豊かな恵みを増してくださると信じます。それはただ個人だけではなく、教会も同じです。我々が通う教会に聖霊様が臨まれ、神様が臨在する教会になるように、常に力を合わせて祈らなければなりません。

なぜならば、今日サタンの戦略一番戦略はあらゆる手段を使い、絶えず主の教会が争うように、分裂させるようにして、神様に、神様が望んでおられることに集中できないように、信徒たちが神様への信仰生活をする事ができないように働いて、戦って来ています。ですから、我々は教会を否定的な思いや、批判しないように気をつけましょう。もしみなさんの教会がたりないことがあるならば、涙をもってぜひ祈って下さい。そして、さらに主が喜ばれる教会となるように共に捧げ、仕えて行きましょう。

教会が争うと、どこに行っても気が休まらないからです。なぜならば、教会と自分は別ではないからです。

教会の祝福が私たち個人とみんなの祝福とつながっていることを覚えてください。これからも私たちが我らのクリスチャンプレイズチャーチを通して日々主と出会い、罪赦しと神の恵みを頂き、主の教会を通して共に献身してさらに尊く用いられるクリスチャンプレイズチャーチの全家族となりますように主イエスキリストの御名によってお祈り申し上げます！

<共に祈り>

今も生きておられる父なる神様、荒野でさまよっていたイスラエルの民に神様が幕屋を与えてくださいました。

イスラエルの民たちが幕屋を通して臨在される神様によって赦され、慰められ、生ける神の恵みを受けました。愛するCPC教会の信仰の家族にもどうか同じような幕屋である主の教会を通して、我らにも豊かな祝福をお与えてください。

この幕屋の中に神のご臨在があり、キリストがおられます。主の教会の中でいつも生きておられ共におられるキリストにで合わせて下さい。イエス様の十字架の前で悔い改めさせ、罪赦しを頂き、イエス様の復活とともに勝利の力を持って荒野のような我らの人生の道のりを前進して行けますように私たちを助けて下さい。どうか始まった10月中にもさらに神様のご栄光の為に我らをも豊かに尊く用いて下さいますように救い主イエスキリストの御名によってお祈りします。アーメン！